

学校教育目標	「かがやき ひびきあう 六つ西の子」 ○主体的に考え、対話的な学びを通して学び続ける力を育てます。(知) ○自分や周りの人への理解を深め、互いをかけがえのない存在として大切にすることを育てます。(徳) ○望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともに健康に生きる力を育てます。(体) ○学校や地域の中で、自分の役割と責任を自覚し、他者と協働する力を育てます。(公) ○自他の違いを受け止めながら、様々な人と進んで関わり、共に生きていく力を育てます。(開)				
	創立 46 周年 児童生徒数: 323 人	学校長 稲葉 靖	副校長 長谷川 裕志	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3
学校概要	主な関係校: 六つ川中学校、六つ川小学校、六つ川台小学校、別所小学校、横浜南養護学校、横浜国際高校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力			六つ川中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
かがやき 創造する力 計画力 思考力 判断力 やりとげ方 主体性 実行力	ひびきあう 発信力・傾聴力 規律性 協力性	六つ川中学校ブロックで育成を目指す資質・能力 自立のための基礎力 高学年: 学校の代表としての自覚をもった行動をしたり、夢や目標をもち生き方を追求したりする力。 中学年: 物事の過程を大切にし、やりとげようとする力。 低学年: 自分に自信をもち、自分らしさを発揮しようとする力。	六つ川中学校 六つ川小学校 六つ川台小学校 六つ川西小学校	MBC基礎力(自立する力、協働する力)を身につけた子ども 令和5年度、MBC(六つ川中学校小中一貫ブロック)で「9年間で育てる子ども像」の見直しを行った。小中学校の発達段階に応じた「子どもの姿」を設定し、資質・能力を明確にしながらずべての教育活動において継続的に取り組みます。 ・小中一貫ブロック運営協議会における3つの推進部会の組織的推進 ・自立する力・協働する力を視点においた協議 ・子どもたちに身に付けさせたい資質・能力の(艇・中・高)発達段階に応じた明確化

中期取組目標	○学校教育目標「かがやき ひびきあう 六つ西の子」の具現化を目指し、子ども一人一人を大切にすることを実践します。 ・低学年では、自分に自信をもち、自分らしさを発揮しようとして身近な「ひと・もの・こと」に積極的に関わったりしようとする力を育てます。 ・中学年では、物事の過程を大切にしたりやり遂げようとして他者と考えを尊重し合い思いや考えを伝え合ったりする力を育てます。 ・高学年では、夢や目標をもち生き方を追求したり地域等社会とのつながりを大切に協働的に解決したりしようとする力を育てます。 ・教職員だけでなく、家庭、地域との連携も密にし、「オール六つ西」で子どもたちを育てます。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	学びの質の向上	①重点研究では、「夢中になって取り組む姿」「自ら学びを創る姿」について研究を進め、思いや気付きを伝え合ったり、学びから課題を見付け生き生きと活動したりできるような授業づくりを目指す。②スキルタイムでは、どんな力を身に付けたいのかを各学年が具体的にもち、子どもの深い学びや自信につながるような指導をしていく。③児童がどこでも安心して学びを進めていけるような場や時間の確保、教材研究の時間を充実させるなど、授業力を高めるための工夫をしていく。
徳	豊かな心	①縦割り活動や集会活動を通して、異学年交流の充実を図り、互いのよさを認め合えるようにする。②職員研修を通して、道徳の授業改善を図るとともに、人権週間のテーマや内容を工夫し、自分のことも周りの人のことも大切にすることを育てる。③図書レジャーズによる読み聞かせや図書委員会を中心とした読書週間などを通して読書活動の充実を図るとともに、様々な芸術に触れる機会を充実させ、見方や考え方を広げる。
体	健やかな体	①体力アップを通して、継続的に運動に親しむとともに、自分に自信をもてるようにする。②主体的に体育科学習に取り組む子どもを育てるため、教員の研修を通して、子どもたちが夢中になって運動を楽しめるような授業を行えるようにする。③委員会活動などの取組で、健康や安全を意識しながら学校生活を充実させられるような活動を、子どもたちが主体的に企画・運営できるようにする。
公開	地域連携・地域学校協働活動本部	①六つ西かがやき☆レジャーズについて、児童に分かりやすく広報するとともに、活動機会を増やしなが、保護者や地域と協働して教育活動を支えていく。②生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域とつながりながら学習を深め、地域によさに気付いたり、地域の一員としての自覚を高めたりする。
	いじめへの対応	①いじめに関する研修を通して、職員の資質・能力の向上に努めるとともに、いじめの定義について、児童・保護者・地域に繰り返し発信し、理解を促していく。②普段から児童・保護者が相談しやすい関係づくりに努めるとともに、アンケートや職員の情報交換などから児童の困り感をしっかりと把握し、寄り添って丁寧に対応していく。③必要に応じて臨時のいじめ防止対策会議を開催し、定期開催の会議と合わせて、いじめの未然防止・再発防止に向けた取組を検討・実施したり、いじめ事案への迅速で適切な対応を組織的に行ったりする。
	人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修、職員研修を細目を実施し、全教職員が同じ目的、認識のもと学校運営や教育活動を行っていけるようにする。②「オール六つ西」の考え方を大事にし、学校運営に関するそれぞれの役割を把握し、連絡・連携を徹底しながらすべての教育活動に全職員が関わっていけるようにする。③会議の短縮を図るために、検討内容を明確にしたり、会議にかける時間の設定をしたりし、短時間で中身のある会議にしていく。
	特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて校内委員会を開催し、児童の困り感や困難さに応じた支援策や合理的配慮などを組織的に検討して支援につなげたり、関係機関につないだりする。②かがやきにおいて、指導体制の工夫を検討し、少人数によるきめ細かい指導・支援を継続的に行いながら、児童の困り感の軽減に努める。③担任・学年と特別支援教育コーディネーターをはじめ関係職員が情報共有を密にし、保護者・SC・SSW・区役所などの関係機関と連携しながら不登校・登校渋りなど困り感に寄り添って対応していく。
	児童指導	①年間を通して、あせかけ運動に継続して取り組む。特に、「清掃」と「けいじめ」を意識できるよう、振り返りの時間を設定したり、成果を発信したりする機会を設定したりする。②定期的にアンケートを実施し、個人や学級をアセスメントしていく。実態を基にY-Pを複数回実施し、個人や学級の力を高め、誰もが安心して豊かに生活できる環境づくりにつなげる。③生徒指導要領の考え方にに基づき、職員が共通認識をもって児童の指導にあたることでトラブルなどの未然防止に努め、安心・安全な学校生活へつなげる。
	幼保小連携	①保育園、幼稚園と連携を密にとり、幼保小連携の活動や新1年生の引継ぎを細かく行いながら、交流授業を行う。②引き続き、スタートアップカリキュラムの内容を充実させ、小学校生活への基礎力を身につけ、小学校生活に適用できるようにする。③園児と児童が相手意識をもって関わり合う活動を通して、小学校への不安を軽減し、学習や生活に期待をもって入学できるようにする。
		c10
	担当	